

# しずおか自治取組発表会 2019冬

## 未来を担うゲスト

静岡県立静岡農業高校  
チームオクシズ  
梅ヶ島&両河内

星野君、小泉君、杉山君の男子生徒3名からなるチーム梅ヶ島と、両河内在住の小林さん。今年の自治取組発表会でも人気の的でした。



中高生の地域連携がよく話題ののぼりますが、この発表会では地域の大人の背中を見ることが何よりの理解を深めると考えています。

梅ヶ島地区は女性の役員登用をはじめとする組織改革のその後について取材。女性の参画により変化がなかった自治会の会議が活気づいたこと、女性役員の感想などを報告したのち、役員会の回数を減らし負担を軽くすること、行事日程を重複させない、活動の効率化などを高校生の目線から提案しました。自分たちは子育て世帯が安心して遊べる空き地の公園化、お茶の研究を通し梅ヶ島のお茶を全国へ発信すること、野菜の勉強を地域で生かし梅ヶ島を活気づけることなどで今後貢献していきたいと語ってくれました。

両河内地区に生まれ育った小林さんは、ココバスができ高齢者が好きな時に好きな場所へ出掛けられるようになり利用者が3倍になったこと、運転手との交流で社会復帰された方がいたなど報告。中山会長が高校生も通学に使えるよう、庵原まで路線をのばしたいと考えていることに感謝を述べながら、まさにココバスは地域を支えている、私も何が出来るのか考えたいと発表しました。



女性や若い子育て世帯が参画できるように、様々な活動の見直しが必要だと提案した上で、自分達がやっていきたいことも発表。チーム梅ヶ島の決め台詞「死ぬときは我が故郷梅ヶ島で」で発表を締めました。

## 静岡市 市民自治推進課

自治会から「市からの依頼文書が多い」との意見を受け、削減に取り組んだ静岡市が発表。

負担になっていた市からの文書の配付依頼を、広報紙に記載したものは重ねて世帯配付や組回覧を行わないことを徹底。23%の削減を行った。また小中学校や交番の配付依頼も市の配付時期にあわせるよう協力依頼。書類への押印の見直しやFAXや電子申請など書類提出方法の選択肢を増やし負担を軽減するなど、多角的な取り組みを発表。

## 「清水区自治会連合会 高山会長」

自治会の基調は安心・安全。課題があろうとも発表できるまで持っていくことが非常に難しく、さらにまちづくりや活性化と言ってもひとくくりにはできないのが現状。参加された方は発表内容から得たヒントを取り入れ、各地で頑張っていたきたいと開会の挨拶をいただきました。



## 持ち帰って ぜひ実行を！ 継続が大事。

静岡市自治会連合会 瀧会長が昨年引き続き総評を述べて下さいました。

## 「静岡市自治会連合会 瀧会長」

発表団体が様々な課題に取り組んでいることがわかる素晴らしい取組発表会でした。引き続き活動し、異なる課題にも取り組んでいただきたい。今回も非常に大勢の方が参加をしてくれたので、ひとつでも身につくよう持ち帰り実行してほしい。自治会は年齢を問いません。高校生もぜひ自治会へ加入して下さいと笑顔で締めくくりました。

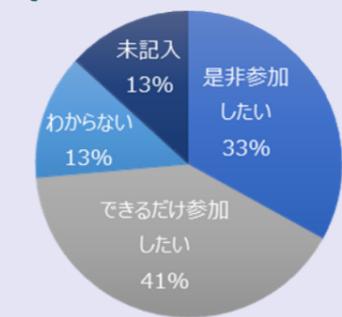
## 「静岡市市民局 豊後局長」

発表者の工夫から学ぶことが多く、行政として何ができるのか考えていきたいと思った。参加者が記入した付箋の数の多さはまさに互いに学び提案しあうことができた証拠。意義のある時間となった。地域作りのためにこの発表会が持続可能であればと思いますと語りました。

## 【参加者アンケート】

Q:来年も参加しますか？

Q:満足度は100点満点のうち何点ですか？



参加者満足度 平均86.7点

同様の課題に悩む参加者が多く、参考事例を求めているとともに、ノウハウや周囲の理解促進についてのサポートが必要なことも読み取れる。このような会を開催することで自らの活動を改めて見直す機会にもなったようです。

## 「参加者の感想」

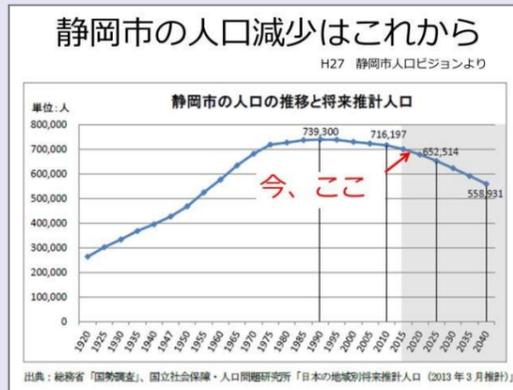
ひとりで動くのではなく周りに助けをもらうことが大事なのかなと思いました。良い取り組みをぜひ水平展開できるようにしたら良い。地域のやる気次第だが、やり方をレクチャーする手引きがあると良い。

共通の話題解決に向けヒントを得た。取組発表会の運営に感謝したい。雰囲気も良く、皆さん前向きで参考になりました！

取り組み内容の詳細を各単位自治会へ広く周知してもらいたい。自治会活動の前進を真剣に考えている自治会があることを知りました。よかったです。

各自治会に聞かせたい企画でした。分科会を設けて参加したいなと思いました。特にIT化についてさらに勉強させていただきたいと思いました。講演会形式でもよかったのではないのでしょうか。発表はどれもすばしかったです。追跡発表もとてもよかったです。

静岡市の人口減少や高齢化はここから加速度的に進んでいきます。そして税収が減少しながらも、社会保障費や公共施設の維持費は増加し、財政が逼迫することが予測されています。行政サービスの縮小や補助事業の減少等が予想されるなか、自治会などの地縁組織による地域活動が、住民の日々のくらしやすさに強く影響する可能性が見えてきます。



## どの自治会でも抱える 同じような課題。 その答えは市内にあった。 静岡市内の好事例が集結！

静岡市内には自治会を筆頭に多数の地縁組織が存在し、暮らしやすい地域作りのために多種多様な取り組みを行っています。しかし地域活動について情報交換が行われる機会は少なく、たとえ市内に優れた事例があっても知らないままに過ごし試行錯誤を繰り返しているようなことが多々あります。全国各地に先進的な事例はありますが、立地や慣習条例などが異なるため、参考にならない点も多く、チャレンジしても徒労に終わることがあります。まずは、同じルールのもと、すぐに聞きに行ける市内の事例から学ぶことが重要だと考え「しずおか自治取組発表会」を開催しています。

地域の課題を最も把握しているのは、行政職員でも専門家でもありません。そこに暮らす人々が、実感をとまなう課題に対し自ら立ち上がり、試行錯誤を重ねることが、課題解決へとつながる一番の近道であり、暮らしやすい地域を作っていくことになるのだと考えます。 (里山くらしLABO)



## 高まりつつある関心！ 昨年より多い 135名が参加！

発表会当日は、静岡市内の自治会役員のみならず、関係者はもちろん、静岡市議のみならず行政、社会福祉協議会の職員、遠く岡山県や富山県からも参加がありました。

「しずおか自治取組発表会」  
平成31年1月20日(日) 13:30~16:00  
場所：静岡市清水庁舎 第3会議室  
～当日の次第～

- 開会挨拶
- 趣旨説明
- 取り組み発表など(前半)  
有事を見越した防災訓練(吉川自主防災会)  
資金不足の解消(丸子ときわ町自治会)  
高校生から見た地域の取り組み①  
(両河内地区が運営する移動手段のその後)  
～休憩・お茶請け付～
- 取り組み発表など(後半)  
前半発表2地区への質問、回答  
自治会のIT化(堂林自治会)  
活動を見直してコンパクトに(両河内地区)  
市民自治推進課の取り組みについて  
高校生から見た地域の取り組み②  
(梅ヶ島地区の組織改革のその後)  
後半発表2地区への質問、回答
- 総評

主催：静岡市(市民局市民自治推進課)  
企画運営：里山くらしLABO(labosatoyama@gmail.com)  
(人口減少がすすむ中山間地域を主に、持続可能なコミュニティづくりを支援する任意団体。地方新聞46紙と共同通信が設けている「第8回地域再生大賞」において特別賞を受賞)  
問い合わせ：054-221-1265(市民局市民自治推進課)

# 静岡市内の知られざる 素晴らしい取組が集結！

## 吉川自主防災会 (清水区有度地区)

### 『有事を見越した防災訓練』

国道一号線を挟み南北に広がる人口約2800名の吉川自治会。津波や地滑りなどの心配はないものの有事の際に国道が規制され地域が分断、さらには幅員の狭い道路を緊急車両が通行できない可能性があることを正確に把握し、発災時に本当に役立つ防災訓練を多角的に行っています。



吉川自主防災会の廣田会長、杉山部長、そして吉川副部長が発表。吉川地区で頻繁に行われている防災訓練の詳細について写真を用いてわかりやすく発表してくれました。

吉川自主防災会では、防災倉庫を地域内6か所に設置し、資機材を充実させ、毎月のように各地で防災訓練を実施しています。

訓練では有事を想定し、参加者ではなく不参加者の把握を行う、狭い道でも有効な可搬ポンプやチェーンソーの取り扱いを住民にも伝授し、運動会ではテント設営も訓練のひとつと考え住民が役員の手を借りずに設置に挑戦する工夫を行っています。さらには地区体育大会の昼食を炊き出しでまかなう、放水訓練の時には側溝掃除を兼ねるなど、さまざまな地域活動に防災訓練をうまく組み込みながら住民の自主防災力を高める工夫をしています。



狭い幅員の道路が多い吉川地区では消防車が入れないような場所も多く、火災発生時には消火用水の確保が重要になります。事前に水路に板をはめこめるように工作し、有事の際には板をはめ込むことで水位をあげ、可搬ポンプで水を吸い上げられるように備えています。

### ちょっとひと息

休憩時には清沢地区の清沢レモンを使い県立静岡商業高校生が商品開発を行った『清沢レモンティンフォン』や前年に逝去された静岡の宝「さくらももこ」さんを偲んだ、漫画「ちびまる子ちゃん」にも登場する『追分ようかん』がお茶請けとして登場しました。



ひと息つける「モグモグタイム」は参加者にとって貴重な交流の場にもなっているようです。

高校生が発案した清沢レモンを使用したレモンティーが香るティンフォンケーキは、参加者に大好評でした。

## 丸子ときわ町 (駿河区長田西地区)

### 『自治会活動資金の安定調達を』

減りつつある資源回収の古紙回収量を増やし、資源回収業者と直接売買を行うことで調達資金を増やし自治会の活動資金として活用。防災倉庫や軽トラックを購入したり、地区内の街頭のLED化を行うなど、暮らしやすい地域づくりに役立っています。



「もったいないと思いませんか」と参加者に問いかけ地域の資源を効率よく資金化し、住みよい暮らし作りに役立てましよう提案を行う静岡市廃棄物減量等推進委員兼丸子ときわ町委員の藤原さんと大石さん。

資源回収の回収量が減ってきたことをきっかけに資源の回収方法や活用の見直しをはじめました。わかりやすい回収日の告知やイラスト付のゴミの出し方の説明、手順の説明はもちろん、回収のお礼を住民に対して頻繁に告知するなど細かな説明を重ねたり、業者の協力を得て保管作業を実施するなど小さな改善を積み重ね、資源の回収量を増加させています。



人口およそ1900名の丸子ときわ町では、住民の協力により毎月約トラック4台分の古紙と約1台分のアルミ缶が回収され、年間70万円ほどの資金へと生まれ変わっています。

そして、集めた資源の利益をあげるために、回収業者と直接交渉を行い、アルミ缶を直接自治会から購入してもらうことで、市の奨励金とは別にアルミ缶の売上も自治会で確保。地域の資源の活用を行政などに頼ることなく見直すことで、700世帯で毎年約70万円の資金を捻出し続け、集まった資金を地区防災や防犯などの地域活動に役立っています。

## 堂林自治会 (清水区岡地区)

### 『自治会活動のIT化』

自治会内の訃報を筆頭とする緊急連絡用の情報網確立の必要性から、ウェブサイトを利用した閲覧板の検討をスタート。無料の交流掲示板を利用した双方向の情報共有を行うことからはじめ、その後も試行錯誤を繰り返し、いつでも誰にでも伝わる情報共有を行っています。



堂林自治会のホームページ。地域情報の掲載に限らず、交流のための掲示板や問合せ先をわかりやすく表示。イベントの写真を載せることが多くの人に見てもらおうとIT担当の齋藤さんは話しました。

堂林自治会ホームページアドレス：<http://doubayashi.org/>

IT化により自治会や区を超えた団体との交流促進に至っており、今後は訪問者に役立つコンテンツの増加やSNSの登録者数を増やすことで自治会の気楽なコミュニケーションを促進し、様々な団体との交流を深め、最終的に収益化まで目指したいと発表しました。費用についての質問には年間6000円ほどでできると回答し、会場からは驚きの声があがりました。簡単にIT化を進めるヒントとして、無料のレンタル掲示板の活用や、LINEやFacebookなどのSNSを使った自治会のグループを作ることを挙げてくれました。

LINEについては勉強会を開催することでITを苦手とする高齢者の巻き込みを促進。IT活動はスマホを活用し、できることから始めてみるのが大切だとしめくくりました。



## 両河内地区連合自治会 (清水区)

### 『自治会活動の見直し』

人口減少問題に直面する両河内地区では、自分達は何をすべきか?について何度も話し合い、地域活動や組織の見直しを行っています。



自治会関係の役員だけでも400、イベントは1000を超えており、見直さなくてはならない状況下だと語ってくれた中山会長。自身も20以上の役を兼務している。

継続している地域活動の見直しの中から、組織は地区社会福祉協議会の例を、行事は敬老会の例を挙げて発表してくれました。地区社協の役員で何度も話し合ったのは団体の目的について。74の役員は20に見直され、総会の来賓もゼロとなりスリム化されました。敬老会の見直しは主催サイドみんなが「主役はお年寄り」という目的をわかっていればいいと説明。1時間10分かかっていた式典を20分にし会場も体育館から温泉センターへ変更、パイプ椅子に座っていた高齢者は座敷でくつろぐスタイルに。来賓も50名を3名へと見直し、敬老会のメインを「両河内劇場」と名付けた懐かしの写真スライドショーと時代にあわせた流行歌の生演奏へと変更。自治会長がエプロンに身を包み「おもてなし」の心をもって高齢者のために開催する敬老会になった。参加者が心から喜んでくれた会になったと話してくれました。



パイプ椅子で1時間以上座っていた式典から、高齢者が楽しめる会へ。コツは内容が目的にふさわしいか確認することだと発表しました。

### 《来場者は全員参加!》



今年も参加者は発表を聞くだけに限らず、各発表内容について考え「質問」「感想・意見」をそれぞれ付箋紙に記入。回収して模造紙にまとめたのち、付箋の内容から各発表者へ質問をし、発表内容の詳細について深堀りを行いました。

台紙に入りきれないほど沢山の付箋。発表内容の人線りや資金、具体的な方法についての質問も多く、自らの地域で実行するにはどうしたらいいのか、具体的なヒントを得ようとする参加者の真剣さも現れていました。

